



「それ、秋もさり春もさりて、年月をおくること、昨日もすぎ今日もすぐ。～～ いただいたずらにあかし、いたずらにくらして、老いのしらがとなりはてぬる身のありさまこそかなしけれ」と、お文(第4帖・4)にあります。まことに身に染み入る言葉であります。

私たちは、「人身受け難し、今すでに受く」のこの身であるにもかかわらず、もったいなくも現実にはただ安穩とその日々を暮らし続けているだけではないでしょうか。生きているうちは健康であることに心がけ、あとは好きなことをやって気分よく楽に暮らせ、死ぬときはポックリと、これが人生の理想であり、目的としてはいいないでしょうか。

仏法は問いかけてくるのです。「本当にそれでよかったのですか」と。しかし私たちは自分の力で生きているという驕りの心があって、仏法に耳を傾けようとはしないのです。たとえ聞いたとしても、どこまでも自分の思いでしか聞けないのです。

「仏法聞き難し、いますでに聞く」という感動は悲しいことではありますが「どん詰まり」のご縁に出遭うほかはないかも知れませんね。いつしかまた、こうして今年も暮れていこうとしています。

身近な人の支えがあつてこそ

R M

私が現在の商売を始めてもう五十年にもなります。皆様には大変お世話になりました。現在では息子たちに後を譲ってからはしばらく経ちますが、八十歳を過ぎる今日までは、特別な病気もなく、健康で過ごさせていただけることができました。

しかし八十一歳を迎えようとする六月に手術までしなければならぬ病気になる、やれやれ治つたかと思つたら、今度は八月の終わりがころから腰痛が激しくなり、大変な思いで毎日過ごすことになってしまいました。

幸い毎月の学習会で一緒に過ごさせていただいているMさんも私と同じ腰痛で苦しみ、手術を受けられ、完治されていることから、手術方法など詳しくお話を聞くことができ、また友人からも同じように聞くことができました。

一時は神や仏もあるものかなどと、思ったりしましたが、術後は一日で退院ができ、つらい思いはごこへやら、思わず感謝の手が合わされました。そして今こうして光受寺の阿弥陀様に手を合わせる事ができるようになりました。

健康の有難さを毎日感謝し、一日でも一回でも多くお参りをしたいと思っております。

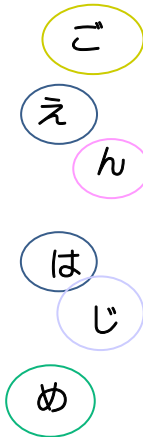
家族や、隣人、知人といった身近な人の支えがあつてこそその私なんだなあ、と改めて感じる今日この頃であります。

ご案内



除夜の鐘

…十二月三十一日(日)



今年も残り僅かになりましたね。
 一年間大変お世話になりました。

除夜の鐘が光受寺の今年最後の行事となります。多くの方のお越しをお待ちいたしております。 合掌

平成30年1月13日(土)

光受寺懇親会開催

(おでん DE パーティー)

場所 光受寺 自由参加
 時間 5時～ ぜひ来てネ
 会費 500円 待ってます。

土手煮最高ですよ!

平成30年 本山奉仕団の募集始めました。

光受寺では2014年に奉仕団として上山して以来のことですが、来年、下記のような要項で再び上山したいと予約をいたしました。

ぜひこの機会にご一緒していただければ、有難いことだと思っております。

期 日 平成30年 9月29日(土)～30日(日) 一泊二日

募集人員 20名

費 用 冥加金 一万円

米 1.3キロ(8合)または800円

交通費等 (記念写真代、他寺院など拝観料、駐車代金) 約一万円

※参加人数によって金額の変動があります。

30日(日)の拝観寺院等は検討中ですが、渉成院(枳殻邸)へは立ち寄る予定を致しております。



渉成園 昭和11年に国の名勝に指定された真宗大谷派の本山・東本願寺の飛地境内地です。周囲に枳殻(からたち)が植えてあったことから「枳殻邸」(きこくてい)とも呼ばれています。石川丈山が手掛けた回遊式庭園。敷地1万坪の大庭園。

その他、聖人がお得度をされた青蓮院か、法然との出会いがあった安養寺(吉水草庵)のどちらかへ参詣したいと考えています。

施設内は足腰の悪い方にも対応できるよう椅子席、エレベーターの設置もしてありますので、ご安心いただけたらと考えています。

奉仕作業も約一時間の軽作業ですので、ご自分の体調に合わせて行っていただければ結構かと思えます。

ちなみにお風呂はホテル並みです。ご夫婦連れでも、幼児連れでもOKですので、ぜひこの機会にお出かけいただけたらと思います。(他門徒の方、ご友人でもかまいません)

受付・連絡...住職直接、またはお電話で。

スケジュール詳細は来年早々に。

今月の掲示板

死もまた我なり

これは真宗門徒としての受け止め方です。

法然上人は浄土に還帰せしめ」と表現されましたが、「死」は、私を生み出し、生かさんとしたらき続ける「のち」の世界に還っていくという事なのです。

信心を通して今の「のち」を安心して生ききる世界が、そこには見えてくるとは思います。

一年間ご購読ありがとうございました。

皆様のご協力により何とか新聞を発行し続けることができました。今後ともよろしくお願いたします。

それでは来年も皆様にとって豊かな人生になりますよう心から念じて御礼とさせていただきます。